

# インドネシア語専攻

🌐 多彩な数百の民族から構成される東南アジア最大の国家であり、日本とも深い関係を持つインドネシアについて、インドネシア語の習得を基盤としながら、言語・文化・社会・信仰・歴史などの様々な面から積極的に学び、理解を深め、その成果を生かして、社会に貢献していきたい人。



アチェの中央モスク

インドネシアは約2億4千万人（世界第4位）の人口をもつ、東南アジアの群島国家です。1945年に独立を宣言しました。

インドネシア語は、マレー語を母体として独自の発展をとげた、インドネシアの国語です。ローマ字で表記され、文法も難しくないため、今では全国に普及しています。一方、インドネシアには数百の地方語があり、日常生活においてはインドネシア語と共にそれぞれの地方語が使われています。

広大な国土と多様な民族集団をもつインドネシアに関して、私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

歴史をひもとけば、ヒンドゥー・イスラム諸王朝の時代、オランダ植民地時代、日本占領時代、そして独立後の激動の歴史が私たちを惹きつけます。1998年の民主化を経て、インドネシアは新しい時代を迎えています。

各地に目を向ければ、多様な文化と社会があります。スマトラ島には母系制で知られるミナンカバウ人、カリマンタン島には「森の民」といわれるダヤク人、スラウェシ島にはかつて海洋王国を築いたマカッサル人、ニューギニア島にはパプアの人びとがいます。また、ジャワ、バリをはじめ、各地の絢爛たる芸術・文学は多くの人々を魅了し続けています。さらに、現代の芸術、文学、ポピュラー・カルチャーは同時代を写す鏡として興味深いものです。

今日、インドネシア社会は、グローバル化の波の中で、変化をとげつつあります。経済が急速に発展する一方で広まった格差の是正、開発と環境のバランス、多宗教・多民族共存などが課題としてあります。

何を学ぶにせよ、インドネシア語は基礎となります。しっかりと言葉を学び、本当のインドネシアに触れる旅に出かけましょう。広く、大きく、多様なインドネシアは、私たちに多くの生きる手がかりを与えてくれるでしょう。



首都ジャカルタ



インドネシアの子供達

「スラマツ シアン」

## Selamat siang

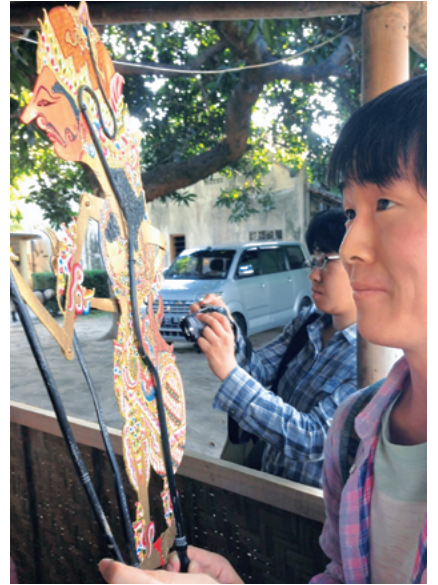
学生の声



3年 柴田 拓真

日本にインドネシア語が話せる大学生は一体どのくらいいるのでしょうか？僕も分かりませんが、きっと少ないでしょう。しかしインドネシアが人口を増し、経済を発展させていく中で日本との関わりは一層増えています。インドネシア語はこれからの時代必要とされる言語の一つでしょう。実用性もありますが、単純にインドネシア語を学ぶのはとっても楽しいですよ！インドネシア語の特徴としては、まず文字に関してはアルファベットなので特に苦労はしません。発音も基本的には書かれている文字をそのまま読みます。manusiaと書けばマヌシアと読む、kakilimaと書けばカキリマと読む、このような感じですよ。ですので、日本人にとっては比較的易しいと思います。文法もいくつかの基本的なルールがありますが、色々覚えるというよりは書いたり話していくうちに自然に慣れていくことができると思います。個人的にインドネシア語で好きなところは語尾にニャという接尾辞がよくつくところですよ。いつもにゃーにゃー言いながらインドネシア語を話しています（笑）

インドネシアは物価も安く比較的訪れやすいですし、日本にもたくさんインドネシア人がいます。「日本から来ました。インドネシア語を勉強しています。」というインドネシア人はみんな喜んで話しかけてくれます。自分が新しく身につけた言語でコミュニケーションができたときはめちゃくちゃテンション上がりますよ！



留学体験記



4年 水野 愛理

海外 foreign 外国 留学 英語 旅 abroad 異文化 international asing …

これを手に取ってくれたあなたは、きっとこんな単語に心躍る人ではないでしょうか！ちなみに最後の単語は私の専攻語、インドネシア語です。

1年生で言語をメインに、2年生ではさらに政治や経済、宗教や芸術を学ぶ中で、私はインドネシアの途方もない多様性に魅せられました。東西の長さはアメリカと同じ距離、1万8000の島国国家。国内では300以上の異なる民族と700以上の異なる言語が、なお生きているというのです。座学だけではなく、実践的な学習もしました。学内でインドネシア人の友人とインドネシア語でしゃべったり、教授がインドネシアヘスタディツアーとして連れて行ってくれたりしました。

2年生の冬、私は留学を決めました。「なんとなく」選んだ国に。理由は2つありました。まず自分が生まれた日本とは全く異なる多様な文化あふれる国を、自分自身の五感で経験したかったから。そして、旅行者としてではなく現地の方と少しでも同じ目線で「住む」ことで、インドネシア人の思考や考え方を知りたいと考えたから。

結果として私は1年間インドネシアに留学しました。日本人に対する偏見に悔しさをかみしめたり、ネズミと追いかけてっしたり、友達にふざけて辛いソースを食べさせられ号泣したり（ソースのせい）。いいことばかりではありませんでしたが、最高に楽しく刺激的な1年間でした。

“asing”とは何なのか、探りたい人が全力で楽しみ学べる環境がここにはあります。

